

平成30年度 運営に関する計画

【最終評価】

学校教育目標

人間尊重の教育を基盤とし、個性を生かし、豊かな人間性を育て、たくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する。

学力の向上

基礎・基本の定着

道徳心・社会性の育成

豊かな人間性や生きる力を育む

健康・体力の保持増進

健康な生活習慣の確立、食育

特別支援教育の充実

生徒の自立や社会参加に向けての支援

大阪市立墨江丘中学校

平成31年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・H28・29年度実施の「全国学力・学習状況調査」における成績、調査結果から見られる、次のような現状から、引き続き次の課題を設定する。
 - (1) 国語においては、大阪府平均と等しいか上回っているが、全国平均に比すると改善も必要である。A・B問題とも数ポイント程度と下回る。さらなる言語活動の充実を意識した授業展開や習熟度別少人数授業等で、生徒の基礎的学力向上を図り、すべての項目で全国平均値に並ぶまたは上回りたい。
 - (2) 数学においても、正答率において大阪府平均を上回っており、全国平均値をも上回る状況にある。特に指導効果が見られる。習熟度別の授業の効果を今後も期待し、質問項目での公式や決まりでの根拠理解に劣りが見られる、論理的思考の部分での改善を意識し、授業展開では、活用力、応用力が身につく授業でしっかりと力をつけさせる。
数値的には、ポイントでさらに、5ポイント程度は、全国平均値を上回ってほしい。
 - (3) 学習状況、意識調査の結果からは、学力向上の観点からは全国平均に比して劣りが見られる復習時間の不足について、その定着および時間の確保をさせたい。また社会性、規範意識の観点では、規則を守ると回答した割合が全国平均値を上回っているので、さらに100%へ近づくよう全体として向上させる。また社会性での仲間意識では、いじめの否定、友達への協力など、この点でも100%を目指す。
- ・H28・29年度実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における成績、調査結果から見られる、次のような現状から改めて課題を設定する。意識調査で面での、運動やスポーツを苦手と考える生徒の割合が若干高い。その観点から、運動、スポーツの楽しさを、授業や部活動を通して実体験させ、意識向上を図りたい。授業では、苦手意識の解消のため、自らの体育的課題を設けて、学習と同じように目標を明確にさせる。また、部活動では、運動部に限らず、学校全体の活性化に向けて、元気あふれる学校ムードを作り上げる。部活動加入率を5%上げ、90%以上を目指す。
- ・H29年度実施の「大阪市英語能力判定テスト」の結果から、改めて課題を設定する。
今後の課題として、実践的な英語力、グローバル意識の高まりなど、現在行っている国際交流、英検対策など英語イノベーション事業に結びつく、実践的な英語力の向上につなげたい。
そのためには、身近に英語があるような環境作り、4技能の発達、客観テスト（英語能力試験など）の結果向上への発展など、具体策を講じる。
- ・総合的な観点からの学校課題
本校における現状をまとめると、学習に対する意識度は全般に高く、それを持続させるため、目標設定と意識化を明確にさせたい。運動、スポーツに対する関心、意識も高いので、学校全体としては、いわゆる文武両道を通じた総合的な学力、生活力を持った力強く生き抜く生徒育成を目標とし、学校経営の中で、学習活動の充実とともに部活動の活性化、運動意識の向上も、ぜひ、図りたい。部活動の活性化は学力向上と強く連携している部分もあるので、けじめある生活リズムで生まれる、学習意識の向上を期待したい。また、生徒意識の中で発生する、互助的、協力的精神の育成は、学校内の友人関係の良好さを保つものに限らず、地域を支えて下さる皆さんにも向けた幅広い社会性を持った協調的なものでなければならない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を100%となるよう目指す。(97.3)
- 平成32年度の全国学力・学習状況調査における「人が困っているときは進んで助けていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上になるよう目指す。(81.6)
- 平成32年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を100%となるよう目指す。(93.6)
- 平成32年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上となるよう目指す。(85.0)
- 平成32年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上となるよう目指す。(84.0)
- 平成32年度の学校アンケート（保護者対象）における「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいますか」の項目について肯定的回答の割合を85%以上となるよう目指す。

(77.0)

- ・部活動の入部率は運動部、文化部を合わせて85%以上である。この高い数値を維持するよう、部活動の活性化を図るため、各部で使用する用具、器具等の充実に努め、地域との交流も深める。

<基本概念>

学校生活の安定化は、全ての学校活動の大前提である。即時的に生活指導、生徒管理を厳しくすることではなく、常に物事の善悪を明確にすること、折々のけじめがつけられること、こういった基本的、恒常的指導が学校安定の基礎固めとなる。この基礎はやがて、授業の活性化やクラブ活動の活発さとなって発展し効果を表す。この学校生活の安定化は、すべての学校命題である学力向上、体力向上に寄与することはいうまでもない。そのための取り掛かりとして子どもたちとのコミュニケーションの重要性、教師の信頼感の獲得は子どもに接する学校教職員にとって不可欠なものと言える。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成32年度の全国学力・学習状況調査における「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の項目について、肯定的回答の割合を60%以上となるよう目指す。(47.0)
- ・平成32年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を50%以上に向上させる。

(40.0)

- ・平成32年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。(81.9)
- ・平成32年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。(73.0)
- ・平成32年度末の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。(67.0)
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成32年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を80%以上にする。(70.8)
- ・特別支援教育の充実－H32年度まで、さらに多様な個人に応じた指導を充実させるため、教育環境に十分配慮し、整った施設環境の中で、個人にまた個別に対応した学習、進路を保障していく。

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（中学校）

- ・平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・平成30年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回答の割合を95%以上にする。
- ・平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。
- ・平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を98%以上とする。
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」の項目について肯定的回答の割合を100%とする。
- 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。
- 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5%程度減少させる。
- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回れる生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5%程度増加させる。
- ・平成30年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力（筋力面）の平均記録を0.2ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を60%以上に向上させる。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成30年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を75%以上にする。

【その他－地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する。

4 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（中学校）

- ・平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合は100%に達した。効果的で即時的な対応ができている。
- ・平成30年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、継続してその維持を図る。
- ・平成30年度末の校内調査において、新たな不登校の発生は見られない。

学校園の年度目標

- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、継続してその維持を図る。
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上とし、ほぼ達成した。
- 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合は85%で、ほぼ目標を達成している。
- 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合は85%で、今後も目標90%以上を継続する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- ・今年度のチャレンジテスト（3年生）については、ほぼ目標を達成しており、大阪府平均を全体でも上まっている。学習姿勢の維持を継続させたい。
- ・平成30年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるという目標はほぼ前年並みであった。引き続きの取組み課題とする。

学校園の年度目標

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を50%以上に向上させるについては、目標にたっしていない。引き続きその必要性の指導に取り組む。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を75%以上にするについては、ほぼ80%となり改善が見られた。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成30年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合は、80%近くとなり意識向上が見られた。引き続き読書活動の充実を図る。

【その他－地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する姿が見られた。

大阪市立墨江丘中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（中学校）	
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 平成30年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回答の割合を95%以上にする。 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 	
学校園の年度目標	B
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上とする。 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいいないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を100%とする。 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。 	
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（中学校）	
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5%程度減少させる。 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回れる生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5%程度増加させる。 平成30年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である筋力面の平均記録を0.2ポイント向上させる。 	

学校園の年度目標

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を60%以上に向上させる。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成30年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を75%以上にする。

【その他－地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する。

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容①【施策1 安心できる学校、教育環境の実現】	生活指導部	進捗状況
取組内容① 安心ルールを集会、HP等で生徒に熟知し、安全で安心した学校生活を送ることができるよう環境を整える。		B
指標 平成30年度の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答の割合を、90%以上にする。 (基盤としての学校安心ルール)		
取組内容② 全校集会、学年集会等でいじめ(SNSなども含む)についての講話、指導を行い、啓発、をはかる。 (いじめ・暴力行為等防止対策)		A
指標 全校集会、学年集会等でいじめについての講話、指導を学期に1回以上行い、啓発をはかり、根絶をめざす。また、いじめの手段が常に変化していくため、時代に応じた対策を模索する。 (いじめ・暴力行為等防止対策)		

年度目標の達成状況の結果と分析

① (基盤としての学校安心ルール)

平成30年度の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答割合92%だった。

② (いじめ・暴力行為等防止対策)

全校集会、学年集会等でいじめ(SNSなども含む)についての講話、指導を行っている。また今年度は二度、携帯防犯教室をおこなっている。

次年度への改善点

① (基盤としての学校安心ルール)

学校の決まり・規則を年度はじめに生徒、教員で共有する。学期に1度確認する機会をもうけたほうがよい。

② (いじめ・暴力行為等防止対策)

いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、人権・道徳教育部会と連携を図り、関連を持たせ指導する必要がある。また、いじめの手段が常に変化していくため、時代に応じた対策を模索する必要がある。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】		達成状況
国語科	〈取組内容〉 国語に興味関心を抱くよう、親しみやすい教材を精選し、文章活動の中で言語力・論理的思考の向上・漢字の定着を図る。	A
	〈目標〉 定期テストで作文などの記述問題を出題し、表現力を養わせる。 3年間を通して常用漢字の定着を図り、個の能力に応じた漢字検定試験合格を目指させる。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 毎週常用漢字のテストを行うことにより、漢字の定着がみられた。 定期テストでの記述問題を解くことにより、前年度より作文の表現力が養われた。	
	〈次年度への改善点〉 常用漢字は3年計画なので、引き続き来年度も実施していきたい。また、論理的思考を身に着けさせるための教材を積極的に取り入れていきたい。	
社会科	〈取組内容〉 生徒たちが興味関心を抱くように教材精選をし、各分野において、基礎的な内容が理解できるようにするとともに、資料を読み取り、思考・判断した内容を適切に表現できるような課題に取り組む。	B
	〈目標〉 夏季課題としてそれぞれの分野で新聞づくりに取り組ませる。基礎知識の定着を図るため、単元ごとを目安に、小テストや復習課題を計画的に課す。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 2年生の前期を週4時間にしたことで進度も順調であった。単元ごとで定期的な小テストや復習課題を課し、基礎の定着の確認を進めることができた。 また、ICT機器を積極的に用いることで、生徒の興味関心を高めることにつながった。	
	〈次年度への改善点〉 授業進度に注意しながら、基礎学力の定着を図っていきたい。また、ICT機器を活用についても研鑽をつみ、より効果的な活用ができるようにしていきたい。	
数学科	〈取組内容〉 生徒が興味関心を抱けるように、ICTなどを用いた授業を実施する。学習内容を繰り返し練習できる課題を与える、小テストを実施する。また、複数担当で行い、習熟度に応じた指導を実施する。	B
	〈目標〉 関数や図形などの単元でICTを活用する。さらに、学習進度に合わせて課題を与える、定期的に小テストを実施する。また、年間総授業数の30%程度、習熟度別による授業を展開する。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 単元ごとの定期的な小テストの実施により、基礎の定着の確認を進めた。また、授業内の復習を繰り返し行うことにより、基礎的な学力が定着できた。また、授業でのICTの活用により、生徒の数学に対する興味・関心を育むことができた。	
	〈次年度への改善点〉 反復演習で、より基礎定着を図るとともに、習熟度に応じて基本的な内容・発展的な内容にさらに力を入れていきたい。3年生において、習熟度別による分割授業を実施していきたい。また、ICTを活用した授業により、生徒の数学に対する関心・意欲を育んでいきたい。	

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容③【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】		達成状況
理科	〈取組内容〉 実験や観察だけではなくICTなどを用いた工夫した授業を行い、生徒の理科に対する興味や関心を持たせる。また、習得の段階を小さく分け、スマールステップで指導する。	B
	〈目標〉 授業では、①各学年実験や観察の授業の機会を増やす。 ②グループ学習や個別学習を取り入れ、自主性・協調性を学ばせる。 ③ICT機器を用いて視覚的に理解できる授業を作る。また、定期的に小テストを実施する。 基礎学力を身に着けさせ、70%以上の正解率を目指す。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 各学年実験の授業を多く取り入れ、生徒の自主性・協調性を育ませ、体験的な学習ができた。また、ICT機器を用いて、視覚的に理科の面白さを伝えることができた。	
	〈次年度への改善点〉 実験の授業を増やし、体験的な授業を行っていく。また、計算問題や記述式問題が苦手とする生徒が多いので、小テストなどを活用し、生徒に応じた学習をさせていく。	
音楽科	〈取組内容〉 生徒たちが興味関心を抱く楽曲を選び、音楽記号、楽譜の内容などの楽典を理解できるように指導し、より大きな声で歌唱し、楽器を演奏する楽しみや音楽を通して感情豊かな心を育む指導に取り組む。	B
	〈目標〉 定期テストでの50%以上の正答率と実技テストにおける60%以上の正確さ。 音楽鑑賞では感情豊かな感想を引き出せるようにする。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 文化祭（合唱コンクール）に向けて協力し合い、発表をする喜びを知る取り組みを行った。視聴覚機器を活用することで音楽に対する興味関心、楽しさを伝える授業ができた。	
	〈次年度への改善点〉 親しみやすい楽曲を選択し、音楽に対する興味関心をよりたかめられる実践に努める。	
美術科	〈取組内容〉 美術に親しみを持つように教材精選をし、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。個性を生かした作品作りを目指し、それぞれの良さを味わえるよう取り組む。	B
	〈目標〉 文化祭や総合文化祭など発表の機会を年3回以上持つ。定期テストでの50%以上の正答率を目指す。他校の教師との研修会で、教材の研究を図る。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 教材では2年生で一部、昨年度より素材を変えて制作しやすいように工夫し、完成度が高まった。作品は校内の掲示版での掲示や文化祭、総合文化祭、造形展、近畿中学校美術展、中学校生徒作品展など発表の機会を増やした。美術室にエアコンがなく、夏期は教室でできる課題を工夫したが、冬期も一部ストーブの管理に労力を要したので、教室で制作できるよう工夫が必要である。定期テストでは2年生が40%、3年生が50%以上正答しているが、目標よりも低いのでさらに教材研究していきたい。	
	〈次年度への改善点〉 次年度も今年度同様に展覧会に出品する為に、制作時間が足りない生徒に対して補講を行ったり、持ち帰りの生徒への作品の扱いに注意したり、さらについてねいに配慮していきたい。また工芸的な課題に取り組む際の、道具の使用上の注意や管理などの研修を重ねていきたい。	

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容③【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】		達成状況
保健体育科	〈取組内容〉 学校の教育活動(集会、各教科、道徳、特別活動、総合)と関連した集団行動の基礎を身に着ける。	B
	〈目標〉 授業開きに集団行動を徹底する。集団行動が苦手な生徒にも学期に1回以上休み時間や放課後、個別指導を行い、集団行動の基礎を身に着けさせる。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 授業開きに習得した集団行動を活かし、グループ活動を多く取り入れた。 グループ活動を通じ生徒同士で一人ひとりの能力向上ができた。	
	〈次年度への改善点〉 集団行動の定着を図り、早い段階でリーダーを育成し、生徒主体の授業を展開できるようにする。	
技術家庭科	〈取組内容〉 生徒が興味・関心を持つような題材の工夫と班活動を中心とした学習形態により、生活に必要な知識、技能の習得に努める。	B
	〈目標〉 文化祭で全員の作品を展示する。授業内で実技テストを行い、進度の遅れている生徒には個別指導を実施し、生活に必要な技能を習得させる。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 班活動を通して、生徒が興味・関心を持つよう学習を進めることができた。 また文化祭展示に向け作品制作に取り組み、作品を展示することができた。 ICT機器を活用し、生活に必要な知識と技能の習得に努めた。	
	〈次年度への改善点〉 技能面での個人差があるため、家庭学習を促し、家庭と連携を図る。 また安全管理に努め、ケガの防止を図る。	
英語科	〈取組内容〉 生徒が興味関心を抱くような教材を精選し、かつICTや視覚教材などを効果的に用いた授業を実施する。また、社会がグローバル化する中で、英語を実際に使用できるよう、スピーキングの機会を増やす。個に応じた指導も実施する。	B
	〈目標〉 英語の基礎基本の定着はもちろん、3年間を見通して、スピーキング力、プレゼン力の向上を目指す。学期に1回はスピーチテスト、プレゼン作成・発表を行う。また、年間総授業数の30%程度、習熟度別による授業を展開する。	
	〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 ICT機器の活用に加えて、発表やペアワーク、グループワーク等、アクティブラーニングを取り入れ、生徒の学習意欲を高めることにつながった。また、スピーキングテストやプレゼン発表など、実際に英語を使用する機会も設けることができた。	
	〈次年度への改善点〉 習熟度別授業について改善する必要がある。年度初めに習熟度別授業での年間計画等を作成し、学年間で共有する等の工夫が必要である。	

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】		達成状況
特別支援教育	<p>〈取組内容〉 生徒一人一人の状況や学力を把握することにより、個に応じたきめ細やかな学習指導やICTなどを用いた授業を実施することで学力の向上を目指す。 また、常に指導方法の研究を行っていく。</p> <p>〈目標〉 在籍生徒の出席日数の増加をめざし、不登校生へは登校を呼びかけていく。 抽出授業では一人一人の状況に応じた指導方法で基礎学力の徹底を図り学力の向上に取り組む。また、入り込み授業では学力の向上はもちろんのこと、自尊心につながるサポートも意識的に行う。</p> <p>〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 不登校生への登校呼びかけを行なった。 抽出授業では一人一人の状況に応じた指導方法により学力も定着しつつある。</p> <p>〈次年度への改善点〉 在籍生徒の不登校生への出席日数の増加をめざし、登校を呼びかけていく。環境整備を行う必要がある。 学力の向上をめざし生徒一人一人の状況や学力を把握することにより、個に応じたきめ細やかな学習指導やICTなどを用いた授業を実施することで学力の向上を目指す。 様々な障がいについての知識、理解を得られるよう教職員、生徒への周知徹底を目指した校内研修や学年での取り組みをしていく必要がある。</p>	B
教員研修	<p>〈取組内容〉 全教員が研究授業・相互授業参観を行い、教員の授業力向上に取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進・学校力UPベース事業)</p> <p>〈目標〉 全教員が年1回以上の研究授業を行い、研究協議も併せて実施することで授業力向上に努める。また、相互授業参観を年2回以上おこなう。</p> <p>〈年度目標の達成状況の結果と分析〉 学年別に年3回の研究授業の日を決め、全教員の研究授業を行なった。相互授業参観も年間2回以上の機会を設けた。また研究協議は小グループで活発に意見の交換ができるようにした。</p> <p>〈次年度への改善点〉 行事や生徒指導の関係で、相互授業参観やその後の研究協議に参加できる教員の数は不安定である。活発な意見交換や実りある協議になるよう、アドバイスシートの活用や研究協議の持ち方について研修し、全教員で確認する必要がある。</p>	B

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容④【施策3 道徳心・社会性の育成】 (道徳教育の推進)	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容 思いやりの心、協力し合う態度を育成し、未来を切り拓く力を育てる道徳教育。 夢と希望をもち、よりよく生きる生徒の育成に取り組む。	
取組の進捗状況を測る指標 「総合的な学習」「道徳」の時間などを十分活用できるように、人権・道徳教育委員会の充実や進路委員会との連携を図る。年間30時間以上の道徳実施。	B
年度目標の達成状況の結果と分析 通知表を意識しながらの授業展開を各学年取り組めた。ただ思いやりの心が育ったかというと、今後も継続して育成に努めていかなければならない。	
次年度への改善点 時間数の確保はやはり厳しかった。ただ担任・副担の交互で授業をすることで担任の量的負担は軽減された。	

取組内容⑤【施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援】 (学校図書館の充実)	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容 学校図書館の活用として、導入になっている「読書通帳機」の活用を図る。 通帳活用率を全生徒の30%以上となるよう普及を図る。 読書量の増加率を前年比10%以上を目指す。	
取組の進捗状況を測る指標 数値目標設定の検証を図り、図書館貸出図書冊数などの稼働率などデータ検証も行う。	B
年度目標の達成状況の結果と分析 コーディネーターや補助員、ボランティアと連携をはからって、図書館の運営を行うことができた。朝の読書も週3回定着しており、休み時間にも読書している生徒の姿が頻繁にみられる。読書が日常のものになっていると感じられる。	
次年度への改善点 読書通帳は機械の不調も時々起こり、活用が盛んであるとはいえないで、来年度以降、広報宣伝に努め、活用を図っていきたい。	

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容⑥【施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援】 (保護者や地域住民に開かれた学校園の運営・生徒指導主事)	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容、 地域行事に生徒自ら地域の構成メンバーとしての自覚に立ち積極的に参加する。 地域小学校との連携と学校ホームページの活性化を深め、地域に住民に開かれた学校運営を進める。伝統的地域行事に学校教職員も参加し地域と学校との連携を強める。	
取組の進捗状況を測る指標 学校ホームページの閲覧数を増やす。地域行事の参加率を高める。	
年度目標の達成状況の結果と分析 地域、学校が連携して行う伝統的な行事である校外ソフトボール大会、餅つき、カルタ大会も今年も実施した。ソフトボール大会では、今年は参加生徒が540名の全校生徒で33名と参加生徒が少なく、また猛暑も伴い今後の在り方を検討していく時期にきていることを感じた。学校ホームページでは日々の平均アクセスが180件あり、学校行事時は多い時で1000アクセスを超えることもあった。今年は災害などもあり、今後学校ホームページの精度を高めつつ、その他のアクセス方法も検討していくことが必要だと感じた。地域の学校として、さらに学校教育を多くの地域の大人で支え、安心安全で快適な開かれた学校づくりができるように発展させていきたいと思う。	B
次年度への改善点 生徒、教職員も共に地域の構成員の一人として地域づくりの観点を持ち、参加意識を持たせる教育を推進させていきたいと思う。特に今年は災害が多く、新たな地域、学校の課題もみえてきた。それらの課題（情報伝達方法・安否の確認・災害避難所運営）などを一つずつクリアしていきたいと考えている。災害、防災などでは、地域の即戦力として中学生の役割は高くなっていることを学校教育でしっかりと指導し、地域社会とのあり方を考えさせたいと思う。	

取組内容⑦【施策4 国際社会において生き抜く力の育成】 (英語教育の強化)	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容 継続して本校姉妹校（台湾）および交流提携校（オーストラリア）との交流を継続、深化させる。台湾とは相互派遣交流、オーストラリアとは派遣交流を実施する。 交流を通して、英語リーダー育成を図り、英語学力向上を目指す。	
取組の進捗状況を測る指標 台湾、オーストラリア交流の実施。英語検定受験者の年間100名以上を目指す。	B
年度目標の達成状況の結果と分析 台湾生徒とともに市内観光地への訪問等、年々交流をさらに深めることでできている。	
次年度への改善点 交流において、受け入れ家庭の偏りなど関わる生徒が少なくなっている現状があるので、国際交流についてさらに周知していく必要がある。	

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

取組内容⑧【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】 (健康に関する現代的課題への対応・食育の推進)	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容 保健だよりや教科と連携し、朝食の大切さを知らせ、毎日食べる生徒が90%以上にする 保健委員会活動を活発化し、手洗い実験・食育・AED・熱中症対策講習会などを 実施することで健康意識を高める。(健康に関する現代的課題への対応・食育の推進)	
取組の進捗状況を測る指標 保健だよりを年6回以上発行する。朝食調査を学期に1回実施する。	
年度目標の達成状況の結果と分析 毎月の目標や健康に関する記事を掲載した保健だよりを8回発行し、生徒への健康意識 を高められるように努めた。朝食の大切さについても教科・地域及び区内の中学校と 連携しながら積極的に取り組むことができた。	B
次年度への改善点 保健委員会活動を通して、健康意識を高められるように保健だよりなどを活用して今後も 取り組みを進めていきたい。また、教科・地域・区内の中学校との連携も積極的に継続し て行うことで、実態を把握しながら多角的なアプローチをしていきたいと考える。また、 全体指導の中で必要に応じて個別指導をどのように進めていくかも課題となってくるた め、学級担任とも連携しながら家庭の状況もふまえて、生徒が健康に学校生活を送られる よう支援していきたい。	

取組内容⑨【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】 (子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容 この時期に発育・発達する骨、筋肉、呼吸・循環器に重点を置き、より一層の発育・ 発達を図る。	
取組の進捗状況を測る指標 休み時間内に授業をスタートし、毎時間ウォーミングアップで各学年充分な ランニングと補強運動を行い、授業時間と運動量を確保する。	B
年度目標の達成状況の結果と分析 普段の授業や学校活動で、十分な運動量を確保できた。	
次年度への改善点 授業や学校活動全体で多くの運動量を確保した。来年度は、授業の中での補強運動の 効果を上げ、全体の体力・運動能力向上をめざす。	

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価はおおむね妥当である。

「学力の向上」に関しては、概ね期待通りの結果であった。「健康・体力の保持増進」については、授業や部活動で熱心な指導、大阪市大との「食育」など、さまざまな取組を実施していただいた。PTA保健委員会との連携も進んでいる。また、「全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や「大阪市統一テスト」の結果について、概ね好い結果であるが、英語については、ご努力いただきたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

全市共通目標（中学校）

- 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 平成30年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回答の割合を95%以上にする。
- 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。
- 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を98%以上とする。
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」の項目について肯定的回答の割合を100%とする。
- 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。
- 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。

全市共通目標（中学校） 評価

- 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合は100%に達した。効果的で即時的な対応ができている。
- 平成30年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、継続してその維持を図る。
- 平成30年度末の校内調査において、新たな不登校の発生は見られない。

学校園の年度目標 評価

- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、継続してその維持を図る。
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上とし、ほぼ達成した。
- 平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上とする。

か」の項目について肯定的回答の割合は85%で、ほぼ目標を達成している。

○平成30年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合は85%で、今後も目標90%以上を継続する。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

全市共通目標（中学校）

- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5%程度減少させる。
- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回れる生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5%程度増加させる。
- ・平成30年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力（筋力面）の平均記録を0.2ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を60%以上に向上させる。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成30年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を75%以上にする。

【その他－地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する。

全市共通目標（中学校） 評価

- ・平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- ・今年度のチャレンジテスト（3年生）については、ほぼ目標を達成しており、大阪府平均を全体でも上まっている。学習姿勢の維持を継続させたい。
- ・平成30年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるという目標はほぼ前年並みであった。引き続きの取組み課題とする。

学校園の年度目標 評価

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を50%以上に向上させるについては、目標にたつしていない。引き続きその必要性の指導に取り組む。
- ・平成30年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合

を75%以上にするについては、ほぼ80%となり改善が見られた。

- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成30年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合は、80%近くとなり意識向上が見られた。引き続き読書活動の充実を図る。

【その他－地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する姿が見られた。

3 今後の学校運営についての意見

- 今後も生徒のために、学力の向上、道徳心・社会性の育成、健康・体力の保持増進、特別支援教育の充実等に取り組んでいただきたい。
- 「教員の業務改革」と「部活動の在り方」の中、放課後、部活動指導に当たらない教員は、限られた時間の中で、学力向上のために、しっかりと学習指導で生徒とかかわっていただきたい。
- 学校元気アップ地域本部との連携をさらに進め、学校・生徒のニーズにあわせて取り組みいただきたい。